

タイトル	刊行によせて
著者	草間，秀樹
引用	北海学園大学法学部50周年記念論文集： i -iii
発行日	2015-03-15

刊行によせて

北海学園大学法学部は、二〇一四年に創設五十周年を迎えた。これまで、節目の年に刊行してきた記念論文集として、十周年記念論文集『法学政治学の課題』（日本評論社・一九七七年）、二十周年記念論文集『法学・政治学の動向』（北海道大学図書刊行会・一九八六年）、三十周年記念論文集『転換期の法学・政治学』（第一法規出版・一九九六年）、四十周年記念論文集『変容する世界と法律・政治・文化』（ぎょうせい・二〇〇七年）が、積み重ねられてきた。そして、二〇一四年に、創設五十周年を記念して本論文集を刊行することとなった。

本学部は、北海道の発展に寄与する人材を育成する高等教育機関開設の要請に応えて、一九六四年四月に開設された。創設後の十年間は、スタッフを確保したり、施設を充実させたりするのが大変であった苦難の時代、創設後の十一年～二十年は、地道に研究・教育陣を充実させ、学部の基礎を固めた時代、創設後の二十一年～三十年は、大学院法学研究科修士課程・博士課程が開設されたり、学部では指定校推薦入試制度が導入されるなど、学生の質的向上を図るべく研究・教育体制が整備された時代、創設後の三十一年～四十年は、政治学科が開設されて二学科体制が確立し、大学院においても、法学研究科政治学専攻修士課程が開設されるなど、学部・大学院の組織が更に拡充されていた時代、創設後の四十一年～五十年は、二次学科選択制が採用されたり、大学院法学研究科政治学専攻博士課程および法科大学院法務研究科法務専攻専門職学位過程が開設されたりするなど、学部・大学院の一応の完成を目指した時代であった。

わが国全体に目を向けると、ここ十年間で、大学を取り巻く環境が大きく変わってきた。グローバル化・少子高齢化が急速に進み、将来予測が困難となったこの時代において、社会は、未来を切り開いていける人材育成、地域の活性化などを大学に強く求めるようになってきた。そして、各大学は、そのような社会のニーズに応えているのが厳格に評価されるという制度の下で、更なる発展を目指している。また、法律分野では、二〇〇四年に法科大学院制度がスタートし、一時は七十校以上の法科大学院が存在したが、受験者数は全体的に減少傾向にあり、すでに十校以上が学生の募集を停止している。このように、全国的に法科大学院制度が低迷していることも影響してか、巷では法学部離れという声も囁かれているところである。

本論文集のタイトルの選定を委ねられた時、私の中で真っ先に浮かんだ言葉は「挑戦」であった。それは、少子化・法学部離れといういわば逆風にあることを感じながらも、着実に前進していきたいという心意気を示したかったからである。たしかに、今のところは、逆風にあることを実感しにくい面もある。しかし、それは、一万五千人以上にも及ぶ法学部の卒業生が長い期間に渡って北海道内外で活躍し、社会から信頼を獲得してきたことの表れであり、現スタッフの我々がそのような先人の功績に胡坐をかいてはならぬということを、誰よりも私自身が自覚すべきであると思ひ、敢えて「挑戦」という言葉を選定した。いずれにせよ、法学部がここまでに至るには、歴代の学部長をはじめとする教職員一同の一方ならぬ尽力とともに、非常勤講師として御来講頂いた諸先生の御高配によるところが大である。ここに衷心より敬意と感謝の意を表したい。併せて、本学園・大学関係者各位の御鞭撻と御支援にも謝意を呈したい。

本論文集には、法学部の現スタッフのほか、松田光一名誉教授、法学法科大学院教員の玉稿を収載することができた。諸先生のご協力に御礼申し上げます。また、特別寄稿として、杉原高嶺名誉教授（京都大学・北海道大学）、杉田敦

教授（法政大学）からの玉稿を収載することができた。それらの内容は、二〇一四年度開催の法学部創設五十周年記念特別講演会でお話し頂いたときの記録を基に先生方に加筆頂いたものである。御講演頂いただけでも望外の喜びであったが、本論文集に重ねてご寄稿を頂き、我々としては身に余る光栄と存しており、ここに先生方の御厚意に対し、衷心より御礼を申し上げたい。

二〇一五年一月九日

法学部長 草間秀樹

（付記）

一 杉原高嶺名誉教授、杉田敦教授の玉稿については、録音テープからの原稿起しなどの点で、本学大学院法学研究科博士課程の牛角由里さん、本田直樹さんが尽力された。ご協力に御礼申し上げます。

二 本論文集は、新山一範教授、鈴木美佐子教授、若月秀和教授が献身的にその編集作業にあたられ、刊行に至ったものである。ここに御礼申し上げます。